

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 93



地元の人々に親しまれ
女性に大人気の神社

**厄除け、交通安全、商売繁盛
のご利益がありますよ**

布忍神社は、近鉄阿倍野橋駅から15分の布忍駅から西へ徒歩5分、西除川を渡ったところにあります。速須佐男之尊、八重事代主之尊、武甕槌雄之尊の三神が祀られています。伝えによると18町（約2キロメートル）北方の天見丘から、祭神をこの地に白布を敷いて迎えたので、この地を布忍、村里を向井と呼ぶようになったといわれています。

古来より病氣平癒、毒虫の退治の神と称えられ、近世では厄除け、交通安全、商売繁盛の神と崇められ、近隣の人々から崇敬されています。

インパクト絶大「恋みくじ」
近年は、現代美術アーティスト・イチハラヒロコさんの言葉が書かれている「恋みくじ」で注目を集めています。「大吉」「吉」などではなく、「恋みくじ」に書かれているメッセージになる「言葉」です。おみくじ、授与品の授与所は月曜日が休み。祝日の場合は火曜日が休みです。時間は午前9時から午後5時までです。



「恋みくじ」、3回引きました。どれも意味深

Culture Navi かるちがーナび

口に含んだら高野豆腐から
あふれ出るお出汁が絶品



材料（4人分）

鶏もも肉80g、たまねぎ140g、にんじん20g、高野豆腐36g、ちくわ40g、むきえび40g、小松菜20g、干しいたけ2g、削り節3g、菜種油1g、調味料（酒4g、砂糖8g、淡口しょうゆ17g）

作り方

- ①鶏もも肉は一口大に切り、たまねぎは20ミリ×20ミリのさいの目切り、にんじんは4ミリ幅のいちょう切りに、ちくわは5ミリ幅の輪切りにする。
- ②高野豆腐はもどして軽くしぼって20ミリ角に切り、干しいたけは水でもどしておく。
- ③小松菜は20ミリ幅に切り下ゆでし、むきえびも下ゆです。
- ④削り節は水200gでだし汁をとる。
- ⑤菜種油を熱し、鶏肉を炒める。たまねぎ・にんじんを加え軽く炒め、だし汁と干しいたけのもどし汁（両方で200g）・ちくわ・干しいたけを加え煮る。
- ⑥調味料で味をつけ、高野豆腐・えびを加えて煮含める。
- ⑦小松菜を加えて仕上げる。

作りませんか



えび入り
高野豆腐の含め煮
交野市職労 国武 裕次さん
協力：現業評議会・給食部会

16mmフィルムが えいが



「タレントタイム 優しい歌」

様々な民族が暮らす街で音楽コンクール「タレントタイム」に挑戦する若者たちの青春

様々な民族、宗教が混在するマレーシア社会を映す青春ドラマ。音楽コンクール「タレントタイム」への出場をめざし競いあう高校生の話で、中心的な配役はこの4人。ピアノが上手な女生徒ムルールの家庭は裕福なムスリム（イスラム教徒）、ギターと歌で自作の曲を披露するハフィズはマレー人のムスリム、二胡を演奏するカーホウは中華系。そして、リハサルに通うムルールのを送迎する役のマヘシユ、彼はインド人のヒンズー教徒で、耳が不自由です。送り迎えを重ねるうちにムルールのマヘシユは愛しあうようになりませんが、宗教の違いから家族に交際を反対されます。一番の成績をとらないと父親に怒られるカーホウは、転入生のハフィズにトップの座を奪われ面白くありません。

せん。ハフィズは脳腫瘍で闘病中の母を介護する毎日です。民族と宗教、文化の違いによる反目や無理解が日常的に存在する社会で、彼らは家庭の事情や悩みを抱えながら練習に励み、コンクール当日を迎えます。

監督はヤスミン・アフマド、民族の多様性をテーマにした作品で国際的に高い評価を得てきました。本作品でもマレーシア社会の複雑な現状を真正面から受け止め、その壁を乗り越えて愛や友情を築こうとする若者たちを爽やかに描きました。使われる言語もマレー語、タミル語、英語、広東語、そして手話、と多様な社会を反映しています。残念ながら、彼女は2009年に51歳で急死、これが遺作となりました。

2017年春に大阪で公開。

心に響くこのひとこと

芸術作品は、部屋を飾るためにあるのではない
敵との闘争における武器なのだ
パブロ・ピカソ
(1881年～1973年)

スペイン生まれ、フランスで活動した画家。有名な「ゲルニカ」は、スペイン・バスク州にある自治体の名前。スペイン内戦中の1937年に、ドイツの空軍遠征隊であるコンドル軍団がゲルニカに対して行った無差別爆撃・空爆を非難することを主題としています。世界で最も有名なピカソの反戦芸術作品といわれています。同年に開催されたパリ万博のスペイン館に展示されゲルニカ爆撃の悲惨さを世界に知らせました。「ファシズムに対する嫌悪をはっきりと表明する」との声明も出しています。1944年から亡くなるまでフランス共産党員でした。

今月の 記念日

民放の日
4月21日

「民放の日」はラジオ16社に民放初の予備免許が与えられた1951年4月21日を記念したものです。同年9月1日に名古屋の中部日本放送（現・CBCラジオ）と大阪の新日本放送（現・毎日放送）を皮切りに、全国で次々と民放ラジオが開局しました。そして、翌1952年のこの日、社団法人日本民間放送連盟（民放連）が発足しました。民放連の目的は、「放送倫理水準の向上をはかり、放送事業を通じて公共の福祉を増進し、その進歩発展を期するとともに、会員共通の問題を処理し、あわせて相互の親睦と融和をはかること」です。民放等の幹部と総理大臣の豪華会食が繰り返され、本来の目的がゆがめられているように感じる昨今ですが、目的にふさわしい報道を期待します。